

「英語文学」の授業展開一考察
— 『ロミオとジュリエット』を事例として—

佐々木 隆

プロローグ

講義形式の授業で英語文学を教授する授業では、特定の作品だけを扱う授業と英米文学全体を扱う授業がある。いわゆる英米文学史を扱う授業である。ここで扱う「英語文学」とは英米文学史としての英語文学の授業である。筆者はこれまで英語文学あるいは英米文学史の教授法についても事例研究等を行って来た。⁽¹⁾今回はさらに具体的に『ロミオとジュリエット』という作品を事例とした教授法を一例を紹介することとする。

1 英語文学のシラバス

英語文学を扱う授業科目名「英米文学史」(2019年度より「英語文学」)のシラバス(2018年度)は以下の通りである。

- 1 授業計画の説明：授業計画の確認及び講義の進め方等について
英語圏文化と World Englishes
- 2 英語文学とは何か／英米文学の特徴
ボブ・ディランのノーベル文学賞受賞をめぐって
- 3 イギリス文学1：イギリス文学史とイギリス文化の概要
作品中の名句等の英語表現等を含む
イギリス文学と映画
カズオ・イシグロのノーベル文学賞受賞を巡って
- 4 イギリス文学2：メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』
(1818)

芸術作品上の人造人間・ロボット・サイボーグ・アンドロイド 100
年

- 5 イギリス文学3：シェイクスピアについて
作品と名せりふ、そしてテーマ
- 6 イギリス文学4：シェイクスピア『ハムレット』
“To be, not to be that is the question.” を中心に
- 7 イギリス文学5：シェイクスピア『リア王』
3人娘と老王：財産分与を巡って
- 8 イギリス文学6：シェイクスピア『ロミオとジュリエット』
バルコニーのシーンを巡って
- 9 イギリス文学7：シェイクスピア『マクベス』
魔女の扱い方及び黒澤明監督『蜘蛛巣城』
- 10 イギリス文学：オスカー・ワイルド「幸福な王子」
幸福な王子(the Happy Prince)とつばめ (the Swallow)
- 11 アメリカ文学1：アメリカ文学史とアメリカ文化の概要
作品中の名句等の英語表現等を含む
- 12 アメリカ文学2：アメリカン・ドリーム、ディズニーとアメリカ
文学
- 13 アメリカ文学3：アメリカ文学と映画
- 14 アメリカ文学4：O・ヘンリー「マギの贈り物」
社会問題に直面するアメリカ文学、貧富の・格差の表現はどのよ
うにされるか（イギリス文学との比較を含めて）
- 15 英米文学を中心にした英語文学のまとめ
文学とは何か／文学形式について／英語で書かれた文学作品

授業の概要は以下の通りである。

英語文学のうち、英米文学を取り扱う。今年はメアリー・シェリー『フ

ランケンシュタイン』(1818)(英文学)から200年と言う記念の年である。つまり、改造人間200年という年である。カレル・チャペック『R.U.R.』(1920)(チェコ戯曲)によりロボットということが誕生し、アイザック・アシモフ『アイ、ロボット』(1950)が発表され、「ロボット(科学)と文学」は大きなテーマである。また、世界中誰もが知っている「シェイクスピア」も特に取り上げ、時代を越えて、なぜ現在でもなお読まれ、舞台上で上演されるのかを履修者と考えたい。映画化された英米文学作品についても積極的に取り上げる。

「英米文学史」のシラバス(授業計画)の意図は次の5点である。

- 1 英米文学の概観を捉えるため、英米文学史の要素を入れる。
- 2 具体的な内容も必要なことから、具体的な作品を扱う要素を入れる。
- 3 誰もが知っている作品も取り上げる。(少なくとも作品名くらいは全員が知っているようなもの)
- 4 2018年という年にこだわった、あるいは最新の情報を盛り込む。
- 5 映画化された英米文学を取り上げる。

授業科目名は「英米文学史」であるが、2019年度より科目名称が「英語文学」となることが予定されていたため、それに合わせたものとした。

2 シラバス中の『ロミオとジュリエット』の取り扱い

シラバス中における『ロミオとジュリエット』の取り扱いについては、概要においてまず次のように言及した。

世界中誰もが知っている「シェイクスピア」も特に取り上げ、時代を

越えて、なぜ現在でもなお読まれ、舞台上で上演されるかを履修者と考
えたい。映画化された英米文学作品についても積極的に取り上げる。

具体的に『ロミオとジュリエット』という作品名はここでは記載してい
ないが、「シェイクスピア」「誰もが知っている」「映画化された英米文学
作品」というキーワードに合致する。次に実際の授業計画において特に
関連するのは以下の3回分である。

- 3 イギリス文学1：イギリス文学史とイギリス文化の概要
作品中の名句等の英語表現等を含む
イギリス文学と映画
カズオ・イシグロのノーベル文学賞受賞を巡って
- 5 イギリス文学3：シェイクスピアについて
作品と名せりふ、そしてテーマ
- 8 イギリス文学6：シェイクスピア『ロミオとジュリエット』
バルコニーのシーンを巡って

実際の授業では第3回目でイギリス文学史の概観としてシェイクスピア
は当然触れることになり、第5回目でシェイクスピアを単独で扱うこと
になる。しかし、第2回目でボブ・ディランのノーベル文学賞受賞に対
するスピーチ（在スウェーデン米国大使アジータ・ラジ代読）を取り上
げ、その中でシェイクスピアに触れているところがあり、芸術形態とし
て文学、演劇、音楽等があることに触れることになる。

I began to think about William Shakespeare, the great literary
figure. I would reckon he thought of himself as a dramatist. The
thought that he was writing literature couldn't have entered his
head. His words were written for the stage. Meant to be spoken not

read. When he was writing Hamlet, I'm sure he was thinking about a lot of different things: "Who're the right actors for these roles?" "How should this be staged?" "Do I really want to set this in Denmark?" His creative vision and ambitions were no doubt at the forefront of his mind, but there were also more mundane matters to consider and deal with. "Is the financing in place?" "Are there enough good seats for my patrons?" "Where am I going to get a human skull?" I would bet that the farthest thing from Shakespeare's mind was the question "Is this literature?" (2)

.....

But, like Shakespeare, I too am often occupied with the pursuit of my creative endeavors and dealing with all aspects of life's mundane matters. "Who are the best musicians for these songs?" "Am I recording in the right studio?" "Is this song in the right key?" Some things never change, even in 400 years.

Not once have I ever had the time to ask myself, "Are my songs literature?" (3)

ここで明らかにしたいことは3つある。第1はシェイクスピアが偉大な芸術家であること、第2に文学の考え方、第3にシェイクスピアの作品が演劇であるということだ。そもそもシェイクスピアの作品は演劇であり、通常、作品として読んでいるものは脚本である。多くの学生にとって小説形式のものは比較的読みなれているが、脚本を読むということに慣れていないという大きな前提がある。さらに、舞台上で演じられてはじめて、シェイクスピア作品の真価が発揮されることになる。活字として『ロミオとジュリエット』を読んだことがある、演劇として観たことがある、映画（映像）として観たことがある、バレエとして観たことがある等、様々な経験知がある。シェイクスピアと言えば、どんな作品を知

っているかと学生に問えば、『ハムレット』と『ロミオとジュリエット』の2作品は必ず応答のある作品と言ってもよい。『オセロ』『マクベス』『リア王』は必ずしも応答される作品とならない場合もある。

3 学生の知っている『ロミオとジュリエット』

授業科目「英米文学史」で『ロミオとジュリエット』を取り上げる際、学生は『ロミオとジュリエット』についてどの程度知っているのかを口頭で質問、黒板等に知っていることを列挙してもらうと次のようなことになった。

- 1 『ロミオとジュリエット』という作品の名前は知っている。ロミオとジュリエットという人物が主人公で最後はふたりとも死んでしまうということだけは知っている学生がほとんど。
- 2 実際に『ロミオとジュリエット』を劇場での上演を見たことのある学生は1名であった。
- 3 映画館あるいはDVD、テレビで放映された映画『ロミオとジュリエット』をみたことがあるは数名。映画はレオナルド・ディカプリオ主演のもの。
- 4 原作の翻訳ではないが、簡単になったもの、おそらく『シェイクスピア物語』の中の『ロミオとジュリエット』を読んだことがあるは数名であった。
- 5 上記1～3のような状態のため、印象的な場面について聞いてみると、ダンスのシーン（舞踏会）が圧倒的多く、プールのシーンという応答もあった。これは上記3のレオナルド・ディカプリオ主演の映画では、いわゆるバルコニーシーンはプールのシーンになっているため、こうした応答になったものと推測できる。この映画を観た学生にはバルコニーという意識ではなく、視覚的にもプールの方

が印象に残ったのだろう。

特に演劇好き、文学好きという学生もいないわけではないが、ほとんどの学生は演劇として『ロミオとジュリエット』を観たこともなく、全体のストーリーも余り分かっていないという状態であった。

4 バルコニーシーンの映像比較と学生の反応

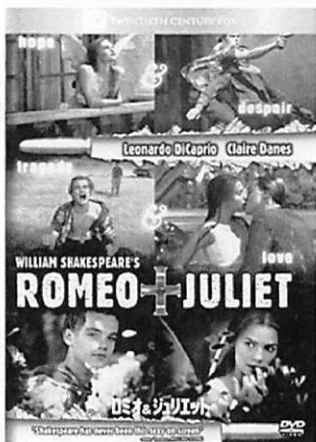
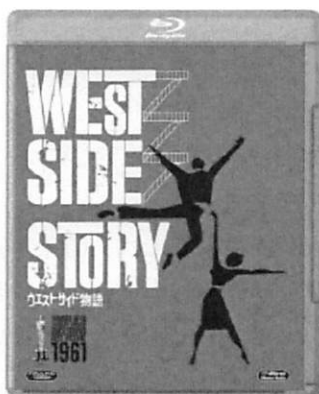
学生の知っている『ロミオとジュリエット』では、印象に残るシーン（場面）等についておもに3つに大別された。もちろん、これは映画等を見た場合、あるいはダイジェスト版等でよく紹介されるということが刷り込み現象のようにになっていることがある。

- 1 ダンスパーティ（舞踏会）の場面
- 2 「おー、ロミオ、ロミオ、あなたはどうしてロミオなの」の台詞がの場面になっている通称、バルコニーシーン。
- 3 ロミオとジュリエットが死ぬ場面。

『ロミオとジュリエット』の映像比較については2017年度で「3 ロミオとジュリエットが死ぬ場面」を取り上げたが、反応が予想していたほどになかったために、2018年度では「2 『おー、ロミオ、ロミオ、あなたはどうしてロミオなの』の台詞がの場面になっている通称、バルコニーシーン」を取り上げた。選択科目のため、履修者の重複はない。比較で使用した映像は次の4つである。

- 1 ロバート・ワイズ、ジェローム・ロビンス監督『ウエスト・サイド物語』（1961）
- 2 フランコ・ゼッフィレリ監督『ロミオとジュリエット』（1968）

- 3 ラーマン監督『ロミオとジュリエット』（アメリカ）（1996）
- 4 大谷太郎演出『ロミオとジュリエット～すれちがい』（2008）



何故この4つの映像を提示したか。その理由は以下の通りである。『ウェスト・サイド物語』は知名度も高く、『ロミオとジュリエット』のミュージカル化映画であることも比較的知られている。1968年版はオーソドックスな映画化である。1996年版は公開時には履修学生はまだ生まれていないが、主演がレオナルド・ディカプリオということから女子学生で知

っている者が比較的多い映画である。2008年版はテレビドラマとして日本の現代版に大きく翻案されているもので、ほとんどの学生は知らないドラマである。ただし、主演が滝沢秀明、長澤まさみということから、ジャニーズファンは知っている作品である。各映像のバルコニーシーンは以下の通りである。

- 1 マリアの家の外側の階段をバルコニーに見立てたもの。ニューヨークのダウタウンとの整合性を図ったシーン。
- 2 オーソドックなバルコニーシーン。
- 3 バルコニーよりもプールが印象に残るシーン。
- 4 現代日本のテレビドラマでは道路に面したベランダ。

それぞれの場面の映像を1～4の順に見てもらったあとにリアクションペーパーで回答してもらった。(リアクションペーパー実施は2018年12月4日) その問いは次の通りである。

(1)『ロミオとジュリエット』のいわゆるバルコニーの場面を部分的に映像を観ましたが、あなたはどの映像が最もしっくりと来ましたか。自分なりの順位をつけなさい。

順位は1～4で必ずつけてもらった。また、(2)として選んだ理由を自由記述で回答してもらった。

	1	2	3	4	
ロビンス監督	4	9	13	11	37
ゼッフィレリ監督	15	11	8	3	37
ラーマン監督	14	12	10	1	37
大谷太郎演出	4	5	6	22	37

	37	37	37	37	148
--	----	----	----	----	-----

ゼッフィレリ監督のものを選んだ理由を大別すると2つに集約された。

- ・ロミオとジュリエットの背景をありのまま表現していて良いと思った。
- ・セリフがわかりやすかったから。

「バルコニーの場面」とこちらが限定したことや、イメージとして、ゼッフィレリ監督のものを選んだ学生が多かった。意外であったのは、「セリフがわかりやすい」が多かったことだ。もちろん、映画で、字幕ではあったが、シェイクスピア作品が台詞劇である本質を捉えたことは、シェイクスピア作品に台詞劇である点が、映像が氾濫している現代であっても、学生の心を捉えたことだ。しかもゼッフィレリ監督の映画を初めてみた学生が多かったこと背景もあり、「シェイクスピア」というブランドが今もなお生き続けている理由のようにも思えた。ラーマン監督の映画を選んだ学生も多かったのは年代的にもうなづける。ゼッフィレリ監督映画とラーマン監督映画を選んだ学生の人数には大きな差はなく、時代状況を雰囲気としてどこまで反映させるかによって意見が分かれたことになる。ミュージカル版と日本版のドラマになったものは、あまりにも改変が多かったことや現代ニューヨーク、現代日本ということでもあまりにもイメージが違う、バルコニーとベランダの違いなどにより学生は選択しなかったようだ。4つの映像のうち、学生が観たことがあるのはミュージカル版のロビンズ監督とラーマン監督のものが最も多く、大谷太郎演出のものはほとんどの学生が初見であったようだ。しかし、大谷太郎演出の映像については1～3までのものを観るとあまりにも状況が異なっていることなど、面白いが、本来の『ロミオとジュリエット』とは違うというコメントが多かった。

以上のことから、学生は単にこれまでの視聴体験に大きく影響を受けるといふよりは、初見のものであっても、趣旨を理解し、また、シェイクスピアの本質を捉えたことになる。特に「セリフがわかりやすい」というコメントは大きな収穫であった。

リアクションペーパーでは3つの質問をしていた。最後の問いは以下の通りである。

『ロミオとジュリエット』は運命悲劇でしょうか、それとも性格悲劇でしょうか？あなたはどのように思いますか。運命悲劇は人間の力ではどうしようもない力によって悲劇なること、性格悲劇はその登場人物の性格が原因で悲劇なることを言います。

37名の学生の内訳は以下の通りである。

運命悲劇	27名	性格悲劇	8名
------	-----	------	----

1名が未回答、1名が運命性格劇と回答した。授業では「悲劇」とは何か、「運命悲劇」「性格悲劇」などについては事前に取り扱いは特になかった。学生はこれまでの情報や当日観た映像の印象、また、リアクションペーパーを記載のおり、デジタルデバイスを利用してリサーチなどをしていたことがあり、その影響の有無についてははっきりわからない。『ロミオとジュリエット』という作品を授業を通して全体を観劇(視聴、精読)したわけではないが、しかし学生はこれまでの情報から『ロミオとジュリエット』を運命悲劇として捉えた。

5 文学作品の映像化

学生の「活字離れ」とよく言われるが、「活字離れ」＝「文学離れ」で

はない。また、単に俳優が有名かどうか、ということに大きく左右されているようでもないようだ。このことは滝沢秀明・長澤まさみ主演のテレビドラマ『ロミオとジュリエット～すれちがい』が学生は3・4番目と回答した学生が37名中28名であったことからわかる。また、単に分かりやすいという理由で映像の選択をしていないことから、文学作品（演劇作品）が映像化されても雰囲気や台詞のわかりやすさを学生が重視していることも学生の回答からわかる。

インターネットの普及により学生は気軽に動画を見るようになったことは事実であるが、動画、映像を観るからといって文学離れと言うわけではない。むしろ文学に内包されているストーリーはマンガ、アニメ、ゲームでも重要視されている。日本のマンガ、アニメ、ゲームが世界で評価されているのはストーリー性にあると言われている。ストーリー性があることから、大人が見ても耐えられるのである。

マンガ、アニメ、ゲームのストーリーの原点が実は文学作品であることは珍しいことではない。RPG（Role Playing Game）ではアーサー王伝説などがその根底にあることはよく知られているところである。竜、剣、仲間、宝物、勇者などはまさに神話の世界そのものである。

授業では『ロミオとジュリエット』の映像を授業時間のすべてをこの1つの映像を観ることを目的としてはしていない。また、すべての時間を単に映像を観ることに当てること自体、授業ではないと考えている。これは授業で行うべきではなく、学生が予習又は復習として自身で行うべきものだ。授業では行うべきことは、学生が個人で行うには困難なこと、映像を観ることで授業の内容が効果的になることだ。この意味である特定の場面だけを抜き出し、映像を比較しながら学生に見せることは、この2つの観点を充足し、学生の興味関心を引き出すことができる。⁽⁴⁾

正岡和恵『「ロミオとジュリエット」を考える』（2013）の中でシェイクスピアの作品と種本との関係から、シェイクスピア作品が「剽窃」ではないかと学生から質問されたことがあつとの指摘がある。⁽⁵⁾ 筆者の

授業では、シェイクスピア作品の映像化を見せても、学生はシェイクスピアの作品をひとつの素材として見ており、映像化された作品はシェイクスピア作品と別のものとして捉えていた。特に『ウェスト・サイド物語』とTVドラマはそのことは顕著であった。

6 リアクションペーパーの効用

本稿では「リアクションペーパー」と表現しているが、先行研究では「学習者レスポンス」「授業感想文」「大福帳」「何でも帳」「ミニツペーパー」「一枚ポートフォリオ」などと表現している場合もあるが、その趣旨はほとんど変わらない。武内清・板倉伸介(2004)では文中で次のように表現している。

リアクションペーパー（講義内容に関するコメントを授業時間中に記載させた）⁽⁶⁾

須田昂宏（2017）によればリアクションペーパーとは以下の通りであると説明している。

リアクションペーパーとは、大学の授業において用いられるコメント用紙のことである。学生はその用紙に授業を受けている中で考えたことや感じたことなどを自由に記述し授業終了時に提出する。⁽⁷⁾

須田（2015）（2017）はさらにリアクションペーパーの効用については次のように述べている。

リアクションペーパーとしてどのような用紙を用いるのか、記入内容に関して特別な指示があるのか、どのようなフィードバックがあるか

など、授業者によって使用方法に多少の違いはあるものの、リアクションペーパーは学習者にとっては授業の振り返りとしての役割を果たし、授業者にとっては授業の形成的評価としての役割を果たし、そして何より一方通行になりがちな大学の授業の中で授業者—学習者間の相互行為を促すルーツとしての役割を果たす。(8)

.....
学習者の発言が少ない大学の講義型授業に関しては「リアクションペーパー」がその代わりの役割を果たす好データとなりうると考えられる。

学生の学びは他にも期末レポートや客観テストから捉えることができるが、リアクションペーパーから捉えられる学びは、期末レポートのような 15 コマの授業の総体としての学びではなく個々の授業の成果としての学びではなく授業内容に対する多様な反応としての学びである。(9)

「リアクションペーパー」や「ポートフォリオ」とはそもそもどのような取り扱いなのだろうか。教員採用試験 Handy 必携シリーズの時事通信出版局編『教育用語の基礎知識』（時事通信出版局、2018年9月）には「リアクションペーパー」と「ポートフォリオ」については項目もなく、当然解説もない。岩内亮一・本吉修二・明石要一編『教育学用語辞典』（第4版改訂版）（学文社、2010年4月）には「リアクションペーパー」の項目はなく、藤川大祐「ポートフォリオ」には次のような説明がある。その一部を紹介しておきたい。

教育においては、個々の学習者の学習履歴をフィアルにまとめたものをいう。これは、アーティストやジャーナリストが自分の作品野生化をクリアファイル等にまとめたものをポートフォリオと呼ぶことに近く、学習過程での子どもたちが書いたものや集めた資料をファイルす

るものをいう。近年、日本においては、総合的な学習の時間等でポートフォリオが活用されることが多くなり、ポートフォリオを活用した学習過程の評価が「ポートフォリオ評価」として注目されている。

(10)

今回のリアクションペーパーは授業担当者からの質問に対する学生の反応を見るといった形式を取っている。もちろん、リアクションペーパーである以上、学生へのフィードバックは重要である。アンケート内容の結果は次週オープンにし、さらに各自のコメントに対して教員側からフィードバックを朱書きで行った。

- ・ロミオとジュリエットから感じる雰囲気とはどのようなものですか。
- ・セリフが分かりやすいとはどういうことですか。

授業で再度上記について取り上げた。今度は学生に発言等を中心に展開した。なお、授業の評価方法として課題（レポート）2回の提出、リアクションペーパー2回の提出の内容により、評価を行っている。この意図は、課題は比較的長い時間をかけて十分なリサーチと考察を加えて、情報機器を活用して課題を作成すること、汎用的な能力も含めて評価の対象としている。一方、リアクションペーパーは15～20分前後の時間といった比較的短い時間の中で、客観性よりも主観性を重視した内容になる。重要視していることは主観的な内容をどうわかりやすく表現できるかということだ。課題の提出時期は第1回目の授業で発表し、リアクションペーパーの実施時期は特に示していない。しかし、授業では毎回終了間際の20分程度で、特定の質問に対して回答してもらっている。これももちろんリアクションペーパーといえるが、教員から個別に学生へのフィードバックをしていないため、あえてリアクションペーパーと謳っていない。しかし、次回及び今後の授業を進める上で参考にしてい

ると同時に学生の出席状況のダブルチェックとして活用している。(学生の出席は学生証を端末機に翳すことで出欠システムによりネット上で管理) できるだけ、学生には授業を聞いてもらいたいという思いがあるからだ。筆者としてはリアクションペーパーの場合には教員からのフィードバックが重要であると考えている。選択科目だからと言って、すべての学生が英語文学に興味があるわけではないからだ。学生が選択科目を履修する場合の理由はおもに以下の通りに分類することができよう。

- ・シラバス等により内容に興味があったから。
- ・友だちが履修するから一緒に授業に出たい。
- ・時間割の関係上、履修し易かったから。
- ・単位の関係や時間割の関係からこの科目を取らないと卒業ができないから。
- ・免許や資格の関係からこの科目を履修する必要性があったから。

主体的な理由で履修する学生もいれば、そうでもない学生もいる。しかし、授業担当者としては毎回の授業で何かを掴んで欲しいと思うのは教員であれば皆同様であろう。

必修科目は学生にある程度の拘束力や緊張感を与えることができるが、選択科目ともなるとその力は激減する。しかし、その反面、選択科目であることから、文学に関するのある学生が履修している可能性も高くなる。また、シラバスでも『ロミオとジュリエット』のバルコニーシーンを取り扱うことはすでに明示していることから、学生が自主的に映像等を見ている可能性も少なからずある。

大学の授業は科目の性格によるが大人数での授業も存在する。このような場合、学生の反応等を知る上でもリアクションペーパーは有効である。

エピソード

「英米文学史」において、『ロミオとジュリエット』のバルコニーシーンを事例にリアクションペーパーを活用しての授業展開について報告した。ここで特に整理しなければならないことは2つある。第1に「文学の映像化」をどうとらえるか。第2にリアクションペーパーの活用とその後のフィードバックである。「文学の映像化」は学生の活字離れ＝読書量の低下を考え、文学作品に触れる機会の多様化として捉えてみた。学生は活字離れ≠文学離れということだ。映像化されたとしても、学生は作品のテーマを読み取ることができた。むしろ、現代ドラマに翻案したものよりも原作に近い設定のものに高い評価をしていた。これはシェイクスピアの持つひとつのイメージがあり、そのイメージに沿っていた映像を受け入れたことになる。リアクションペーパーの活用については、単なる授業の感想を書いてもらうという以上に、特定のテーマに絞り、学生の反応を知りたい、また、その反応にはどのような背景があるのかも記載してもらった。

授業の展開と学生の反応を知るにはリアクションペーパーは有効であるが、単なる感想やコメント書いてもらうことが重要なのではなく、こちらからのコメントを入れて、フィードバックすることが重要であると考えている。すでに別のシェイクスピア作品の映像化でも同様のリアクションペーパーの活用を行っているため、その分析も行っていきたい。

注

- (1)「教育実践例 教材に関する学生の反応と指導—英米文学史—」(『武蔵野教育研究』第3巻第10号、武蔵野教育研究会、2017年8月)と「『英語文学』に関する一考察—実践例と今後の展開—」(『武蔵野教育研究』第3巻第14号、武蔵野教育研究会、2017年12月)。なお、実

際の英語文学を原書で読む英書講読の教授法については「教育実践例教材に関する学生の反応と指導—英書講読—」（『武蔵野教育研究』第3巻第8号、武蔵野教育研究会、2017年6月）で取り上げた。

(2) 「ボブ・ディランのノーベル文学賞受賞スピーチ 2016/12/11 15:47
（<http://www.nikkei.com/article/DGXMZO10538020R11C16A2I00000/>）（2017年1月4日アクセス）

(3) Ditto.

(4) 筆者はシェイクスピア映画研究及び英米文学の映像化の研究として以下の論文等を発表しており、原作から映像化の問題も取り扱っている背景がある。

「シェイクスピアと映像——日本」（研究発表：第58回ビビュロス研究会、1993年6月）

「シェイクスピアと映像—日本の状況を考える」（『英米文学と言語』第2期第3号、ビビュロス研究会、1994年3月）、pp.1-12.

「日本における Shakespeare 映像」（『武蔵野短期大学研究紀要』第9輯、武蔵野短期大学、1995年6月）、pp.69-76.

「日本における英米文学 映像をめぐって」（研究発表：第3回日欧比較文化研究会、1997年7月）

「英米文学と映画」（研究発表：第6回日欧比較文化研究会、2000年7月）

「外国文学の名作と映画」（武蔵野学院大学・武蔵野短期大学・日本総合研究所コラボレーション講座、2006年5月）

「時代を映す『ロミオとジュリエット』の上演」（『VISA』通巻468号、VISA編集室、2012年8月）、p.66.

「ハムレット映画『炎の城』について」（『むらおさ』第19号、2014年1月）、pp.6-10.

「日本におけるシェイクスピア映画研究に関する一考察—『炎の城』を巡って」（『武蔵野学院大学大学院研究紀要』第8輯、武蔵野学院

大学、2014年3月)、pp.27-38.

「シェイクスピア映画としての『炎の城』に関する研究—『ハムレット』とのストーリー展開の比較—」(『武蔵野学院大学大学院研究紀要』第9輯、武蔵野学院大学、2016年3月)、pp.17-25.

「シェイクスピア翻案映画としての『エノケンの豪傑一代男』:原作から脚本へ」(『武蔵野学院大学大学院研究紀要』第10輯、武蔵野学院大学、2017年3月)、pp.19-30.

「『炎の城』における劇中劇に関する研究」(『武蔵野学院大学大学院研究紀要』第11輯、武蔵野学院大学、2018年3月)、pp.27-41.

「日本のシェイクスピア映画について」(『むらおさ』第29号、2019年1月)、pp.9-13.

「中江裕司監督『真夏の夜の夢』に関する一考察」(『武蔵野学院大学大学院研究紀要』第12輯、武蔵野学院大学、2019年3月)、pp.25-37.

上記以外にも日本へのシェイクスピア受容に関する論文の中で黒澤明監督の3つのシェイクスピア映画『蜘蛛巣城』『悪い奴ほどよく眠る』『乱』についても取り上げている。

- (5) 正岡和恵「『ロミオとジュリエット』を考える」(成蹊大学文学部会編『シェイクスピアを考える』風間書房、2013年3月)、p.144.
- (6) 武内清・板倉伸介「学生のリアクションペーパー及びレポートの考察—教員の講義内容はどのように学生に受け取られているのか—」(『上智大学文学部教育学科紀要』第38号、上智大学文学部教育学科、2004年3月)、p.43.
- (7) 須田昂宏「リアクションペーパーの記述内容に基づく学生の学びの可視化—大学授業の実態把握のために—」(『日本教育工学会論文誌』第41巻第1号、日本教育工学会、2017年2月)、p.14.
- (8) 須田昂宏「リアクションペーパーの記述内容をデータとしてどう活用するか—研究動向の検討を中心に—」(『教育論叢』第58巻、名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻、2015年3月)、p.20.

- (9) 須田昂宏「リアクションペーパーの記述内容に基づく学生の学びの可視化—大学授業の実態把握のために—」、p.14.
- (10) 藤川大祐「ポートフォリオ」(岩内亮一・本吉修二・明石要一編『教育学用語辞典』第4版改訂版、学文社、2010年4月)、p.220.

【キーワード】英語文学、リアクションペーパー、教授法、『ロミオとジュリエット』